

氏名 椋 園 宏

学 位 の 種 類 医 学 博 士

学 位 授 与 番 号 博 甲 第 960 号

学 位 授 与 の 日 付 平 成 3 年 3 月 31 日

学 位 授 与 の 要 件 医 学 研 究 科 病 理 系 病 理 学 () 専 攻

(学 位 規 則 第 5 条 第 1 項 該 当)

学 位 論 文 題 目 A monoclonal antibody (OPT1) to T cells which is available
for paraffin-embedded materials
(パラフィン包埋材料に適用可能なT細胞に対する単クローナル
抗体 OPT1)

論 文 審 査 委 員 教 授 岡 田 茂 教 授 木 村 郁 郎 教 授 折 田 薫 三

学 位 論 文 内 容 の 要 旨

末血リンパ球より分離した活性化T細胞をマウスに免疫した後、細胞融合を行い、ヒトT細胞に対する抗体OPT1を作製した。Ouchterlony法では、OPT1はIgG₁ classであった。SDS-PAGEでは抗原の分子量は決定できなかったが、その理由の一つとして、抗原が sialoantigenである可能性がある。フローサイトメトリーでの検索では、OPT1は末血T細胞の大部分に陽性であった。一方、末血B細胞は大部分陰性であった。OPT1はホルマリン固定、パラフィン包埋材料に適用可能であり、免疫組織学的検索では反応性および腫瘍性のT細胞を認識した。このほか、組織球系の細胞や骨髓の赤芽球系の細胞も陽性であった。非リンパ性の臓器ではごく一部の細胞が弱陽性を示したのみであった。また、T細胞に対する既存の抗体(MT1, UCHL1)との間に相違が認められた。OPT1は、pan T-cell markerであり、hematolymphoid malignancyの診断に有用と思われる。なお、本論文は共著論文であり、共著者の協力を得て完成したものである。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

本研究はヒトT細胞に対する抗体OPTO1を作製し、この抗体がホルマリン固定、パラフィン包埋材料に適用可能であり、免疫組織学的検索により反応性および腫瘍性のT細胞を認識することをみいだしたものである。この抗体はT細胞に対する既存の抗体との間に相違が認められており、従来困難であったリンパ球系悪性腫瘍の診断に重要な知見を得たものとして価値ある業績であると認める。

よって、本研究者は、医学博士の学位を得る資格があると認める。